

世界が広がる!

こどもと地図

2012年度

3 学期号
(1月)



「ユニバーサルデザインのまち」 ～JR岐阜駅周辺のバリアフリーのくふうを見つけたよ！～

岐阜大学教育学部附属小学校 平野 孝雄

はじめに：本校の学校教育目標は、「なかまのしあわせのために よく考え 助け合い つくり出す 心身ともに健康な子」です。児童一人一人が「なかまのしあわせ」を願い、自分から進んでものごとを考えたり、進んで動いたりすることを大切にしています。

笠井さんは、社会に対しての興味・関心・意欲が高く、積極的に社会のあり方に目を向けることができています。とくに社会科においては、「人・もの・こと」に着目し、人々の営みや社会のしくみについて追究する際、事実をもとにしながら、「誰が、何をすることが望ましいのか？」と問いながら考えを深める姿がありました。

作品について：今回の作品は、夏休みに取り組んだ「博士勉強（自由研究）」として、出品されたものです。

この作品は、JR岐阜駅の構内にあるユニバーサルデザインを自分の目で確かめたことに意味があります。

笠井さんは、ユニバーサルデザインを母親と学ぶことで、「みんながしあわせにくらせるようにするためには？」と自分に問いながら社会のあり方を見つめていました。

できあがった作品を見るとわかるように、極力文章による表現をしないようにしています。実際の現場の写真とピクトグラムを並べることで、誰もが理解できるようにくふうがなされています。

おわりに：夏休み後の作品展示会の際、全校の

なかまが足をとめたこの作品。実際に、JR岐阜駅を利用している児童からは、こんな声が聞かれました。「あるんだけど、見えていなかった。見えていなかったけど、目の不自由な方や耳の不自由な方には、大変役に立っている。一緒に使えるユニバーサルデザインの考え方をこれからも大切にしたい」。

笠井さんの作品をきっかけに、本校にもユニバーサルデザインの考え方が広がっていきました。

作成者の話：岐阜大学教育学部附属小学校 5年 笠井 信宏

ぼくの祖母は、目が少し悪いです。祖母と歩く時、道には、いろいろなユニバーサルデザインがあり、それを利用しました。

JR岐阜駅を利用した時、ユニバーサルデザインがどこに、どんな種類があるのかを自分の足で歩いて確かめました。

はじめに、駅構内の点字ブロックを数えました。調べた結果、その数は、10,812枚でした。その他のユニバーサルデザインには、ピクトグラムやベンチ、点字と音声の両方備わった地図がありました。

確かめたことを、介護福祉士を目指している母と共にマップにまとめました。

母は、「もっとたくさんの場所に、ユニバーサルデザインが広まってほしい」と願っています。このマップを見て、ユニバーサルデザインの大切さを知ってほしいと思います。